



H.Ozawa

THE LAUREL R.C.SHO NAKAYAMA HIMBA STAKES

第42回 ローレル競馬場賞 中山牝馬ステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円
付加賞 567,000円 162,000円 81,000円



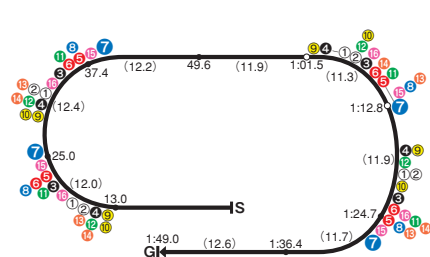
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

牝、4歳以上、2023.3.11以降2024.3.3まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2024.3.9 中山 晴・稍重 芝1800m (国産) (特指)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	コンクシエル	牝	4	53	岩田望来	1:49.0	1-1-1-1	36.2	474(+2)	8.8⑤	清水久詞(栗東)	103
2	④	クナ	牝	6	55	戸崎圭太	1/2	12-12-7-6	35.8	470(+2)	7.5④	栗田 徹(美浦)	106
3	⑤	シンリョウカ	牝	4	54	木幡初也	アタマ	3-3-5-3	35.9	464(±0)	9.4⑥	竹内正洋(美浦)	104
4	⑫	フィールシンパシー	牝	5	53	横山琉人	1	2-2-2-2	36.5	456(+4)	32.0⑪	小島茂之(美浦)	100
5	⑪	コスタボニータ	牝	5	55	西村淳也	ハナ	6-5-5-6	36.1	470(+2)	7.0③	杉山佳明(栗東)	
6	①	タガノパッション	牝	6	53	大野拓弥	アタマ	9-9-14-12	35.5	474(-8)	24.6⑨	武幸四郎(栗東)	
7	③	クリノプレミアム	牝	7	55.5	松岡正海	1/2	6-7-9-10	36.0	484(-2)	36.2⑩	伊藤伸一(美浦)	
8	⑩	アレグロモデラート	牝	5	50	木幡巧也	アタマ	15-15-11-11	35.8	488(+4)	25.1⑩	武井 亮(美浦)	
9	⑨	フィアスプライド	牝	6	56	C.ルメール	アタマ	10-9-2-3	36.6	478(±0)	4.3①	国枝 栄(美浦)	
10	⑬	ルージュエクレール	牝	5	52	菅原明良	1/2	12-12-11-14	35.9	430(+2)	39.0⑫	萩原 清(美浦)	
11	⑥	ラヴェル	牝	4	54	横山武史	1/2	8-8-9-6	36.2	458(±0)	9.8⑦	矢作芳人(栗東)	
12	⑥	グランスラムアスク	牝	5	52	古川奈穂	クビ	3-5-7-6	36.3	462(-14)	139.6⑬	矢作芳人(栗東)	
13	②	ルージュリナーシュ	牝	5	53	丸田恭介	クビ	10-9-11-12	36.1	446(-2)	18.2⑧	宗像義忠(美浦)	
14	④	キタウイング	牝	4	53	杉原誠人	1 1/4	12-12-15-15	35.8	438(+4)	100.7⑭	小島茂之(美浦)	
15	⑨	ファンタジア	牝	5	51	原 優介	3/4	15-15-16-15	35.7	500(+2)	44.2⑮	堀 宣行(美浦)	
16	⑧	ヒップホップソウル	牝	4	55	北村宏司	5	3-3-2-3	38.0	496(+6)	6.0②	木村哲也(美浦)	

単勝⑦880円(5%) 複勝⑦350円(7%) ⑩260円(4%) ⑤330円(5%) 枠連④-⑦490円(1%)
馬連⑦-⑩4,820円(18%) ワイド⑦-⑩1,780円(20%) ⑤-⑦1,550円(15%) ⑤-⑩1,880円(22%)
馬単⑦-⑩8,030円(33%) 3連複⑤-⑦-⑩18,930円(65%) 3連単⑦-⑩-⑤106,930円(363%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
37.4 - 49.6 - 1:01.5 47.5 - 36.2

アラカルト

- ・岩田望来騎手は中山牝馬S初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算8勝目
- ・清水久詞調教師は中山牝馬S初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算24勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算25勝目
- ・4歳馬の勝利は20年フェアリーボールに続く通算17回目
- ・枠連490円は同式別における本競走の最低払戻金額
- ・非当選馬 1頭(ハギノメーテル)

コンクシェル Conch Shell

牝 黒鹿毛 2020.4.25生
北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産
馬主・前田晋二氏 栗東・清水久嗣厩舎
馬名意味・ピンク色の美しい真珠を生み出す母貝

ザナIRE系 F1-u

キズナ 青鹿毛 2010	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat Pacific Princess
ザナIRE Xanas 黒鹿毛 2008	Galileo 鹿毛 1998	Sadler's Wells Urban Sea
	Maskaya 鹿毛 1999	Machiavellian Majinskaya

5代までのインブリード：Halo S4×M5 Northern Dancer M4×S5
Mr.Prospector M4×M5

INTERVIEW

齋藤慎取締役 ディレクター(大山ヒルズ・育成)

戻ってくる度に成長を感じます

こちらに来た頃から馬っぷりが良く、早期デビューが見込める期待の馬でした。伸び悩んだ時期もありましたが、清水厩舎とこちらを行き来することによりちょうど良い間隔でオンオフの切り替えができる今の調整スタイルが合っているのでしょう。戻ってくる度に成長を感じます。次走ヴィクトリアマイルでも自分の競馬ができれば必ずと結果はついてくると思います。



T.Miki

キズナ産駒の本馬は昨年の夏に頭角を現し、逃げの戦法で1、2勝クラス特別を圧勝。勢いに乗って挑んだローズSは自分の形に持ち込めず12着、秋華賞も18着と精彩を欠いたが、前走の3勝クラス特別は離れた2番手追走から悠々と抜け出し、再浮上のきっかけを掴んでいた。この日も吹き付ける強い北風を切り裂いて快勝。逃げたレースでは負け知らず(3戦3勝)の個性派からは、今後も目が離せない。

後の力を振り絞る。内からは好位のインで脚を溜めていたシンリョクカ、外からは今回が引退レースとなるククナも伸びてきたが、勝利の軍配は坂を駆け上がったもうひと踏ん張りしたコンクシェルにあがった。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 中央、仏14戦7勝(日本ダービー^{G1}、大阪杯^{GⅡ}、京都新聞杯^{GⅡ}、ニエル賞・仏^{G2}、毎日杯^{GⅢ})、最優秀3歳牡馬、16年から供用。23年日本2歳リーディングサイヤー
〔代表産駒〕ソングライン(安田記念^{G1}2回、ヴィクトリアマイル^{G1}、富士S^{GⅡ}、1351ターフスプリント・沙^{G3})、アカイト(エリザベス女王杯^{G1})、ディーブボンド(阪神大賞典^{GⅡ}2回、フォワ賞・仏^{G2}、京都新聞杯^{GⅡ}、天皇賞(春)^{G1}2着3回、有馬記念^{G1}2着)、パスラットレオン(ニュージーランドトロフィー^{GⅡ}、ゴドルフィンマイル・首^{G2}、1351ターフスプリント・沙^{G3})、マルターズディオサ(チューリッパ賞^{GⅢ}、紫苑S^{GⅢ}、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}2着)、アスクワイルドモア(京都新聞杯^{GⅡ})、ヒアンフェ(函館スプリントS^{GⅢ}、函館2歳S^{GⅢ}、葵S(重賞))、ファインルーシュ(紫苑S^{GⅢ}、フェアリーS^{GⅢ}、秋華賞^{G1}2着、ヴィクトリアマイル^{G1}2着、桜花賞^{G1}3着)、他に重賞勝ち馬多数

母ザナIRE

中央5戦0勝。09年輸入

デイト(13 牡父マンハッタンカフェ)中央5戦0勝

エール(14 牝父マンハッタンカフェ)中央17戦1勝、地方9戦0勝

エルモーツ(15 牝父ゼンノロブロイ)中央1戦0勝、地方36戦3勝(16 流産)

サヴァイヴ(17 牡父キンシャサノキセキAUS)中央46戦2勝 ㊟

マリナー(18 牝父キズナ)中央23戦3勝(知多特別)

シンシアウィッシュ(19 牝父キズナ)中央16戦3勝(紅の森特別、フローラS^{GⅢ}3着) ㊟

コンクシェル 本馬(20 牝父キズナ)中央16戦5勝(中山牝馬S^{GⅢ}、初音S、不知火特別、鞍ヶ池特別、アネモネS・L2着)獲得総賞金106,783,000円
インフルブルーム(21 牝父ダイワメジャー)中央7戦0勝 ㊟
ラヴェンデル(22 牝父キンシャサノキセキAUS)
(23 牝父キズナ)

祖母メイスカヤ Maskaya

アイルランド産 愛、北米、英1勝

ドラムビート Drumbeat(06 牝父Montjeu)仏、英、愛、星4勝(クリテリウムドサンクルー・仏^{G1}2着、フェイルデンS・英L2着)

ザナIRE(08 前出)

カリフォルニア California(12 牝父Azamour)英、仏4勝(リリーラングトリーS・英^{G3}、リヴァーイーデンS・英L2着、パークヒルS・英^{G2}3着)

得意な先制攻撃で重賞初勝利

ひと桁の単勝オッズを記録した馬が7頭。例年にも増して混戦ムードに包まれた牝馬のハンデ重賞・中山牝馬Sは、暮れのターコイズSで重賞初制覇を果たした6歳馬フィアスプライドが頭ひとつ抜けた支持を集めた。重賞2着2回の実績を持つ4歳馬ヒップホップソウル、同じく3着3回の5歳馬コスタボニータがこれに続く存在と目されたものの、レースの上位を占めたのは4〜6番人気の3頭。このうち、5番人気のコンクシェルが「先制攻撃」を勝利に繋げ、4度目の挑戦で重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

スタートから手綱を押して押し手を手張、同型馬に競り込む隙を与えずに主導権を奪い切ったのがコンクシェルと岩田望来騎手のコンビだった。単騎の形に持ち込んだ逃げ馬を見遣りながら、ヒップホップソウルは3、4番手の外、コスタボニータがその背後を進む。一方、序盤は中国馬群の後方寄りにつけたフィアスプライドは向正面半ばから進出を開始。2番手のフィールシンパシー、応戦して仕掛けたヒップホップソウルとともに、3コーナー過ぎでは前に並びかけた。

それでもコンクシェルはプレッシャーをかけてきた面々を逆に突き放して4コーナーをターン。傷みが目立つ内めを避け、直線では馬場の真ん中へ持ち出した岩田騎手のリードに応え、最後の力を振り絞る。内からは好位のインで脚を溜めていたシンリョクカ、外からは今回が引退レースとなるククナも伸びてきたが、勝利の軍配は坂を駆け上がったもうひと踏ん張りしたコンクシェルにあがった。